

陽気だより

養徳社 検索

No.8 2007.11.15

創刊号から

「陽気」は、昭和24年5月の創刊、平成21年に60年を迎えます。その足跡の一端を、昔の記事から振り返っていきます。

茫々漠々として、天際につながら大平原が視野のかぎり

来る、あのめがねをかけた、がにまたの、写真機を肩にしたその姿であった。世界に又とない、コロラド大峽谷の、一方の断崖端に立って、無量の感慨にふけりきっている私を、後からしきりによぶ者があるのである。

「あなた、写真がとれるんでしょ」
「ええ、とれますよ」
「だったらね、すみませんけどね、この写真機で、あたし達二人をとって頂戴、あすこへ二人が立ちますからね」とある崖端に二人がよりそ



つて立った。立つというよりも、もつれあい抱きあうようなポーズで、二人ともとけ入るような笑顔をかわして「さあ、撮って頂戴」というのである。
こつちが照れてしまうような情景の中に、シャッターはきられた。一枚ですむかと思いうと色々のポーズで何枚も位置をかえて、とらせられた。流線形、卵黄色の、オープンカーに、さつとひるがえった、裳裾のグリーンがいつ迄も網膜にやきつけられた。あつけにとられて、あとにぼんやり立ちつくした東洋人の私は、何か眼の前に、パーツと咲いた花が、急に視野から消えた寂しさに包まれた。

人生をエンジヨイ(享樂する)するのには、何の気兼ねも遠慮もないし、人もそれを見て何とも思わず、ほほえましく眺めるばかりの世界が、アメリカだった。(後略)



花ハダ迷惑

河井恒雄

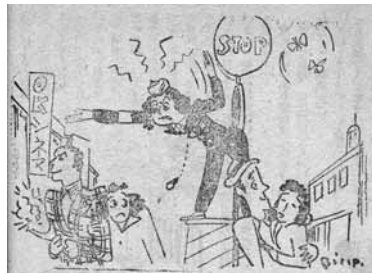
たしかこの辺は桜の名所だつたはずだが……



お花見ランデヴー

片岡敏夫

「ほオラ、望遠鏡の方がよく見えるだろう」
「マア、素的！ きれいなエ」
「君の方が、ずつときれいだよ」
「アラ、本当？ うれしい！」



春はアベック

中田敏夫

だから交通整理はいやだつて言つたんだわ

春らんまん傑作漫画競べ
(創刊号より)

「荒い陽気さ」誘う「おつとめ」

今村英太郎氏は『おちば今昔ばなし』（道友社刊）の中で、
「私の記憶に残るころ本部の祭典のおつとめでは、「地方」は大抵平野檜蔵先生と上原佐助先生がおつとめになつていたように思う」と、
当時のおつとめの雰囲気伝えてる。

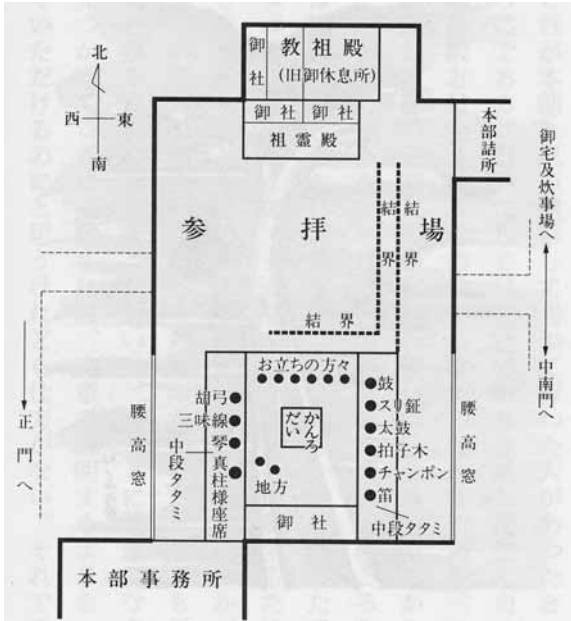
かんろだいの坤（南西）、親神様をお祀りしてあるお社の近くに八足を前に座り、幅があり声の大きいお二方が、顔を赤くして大声を張り上げて歌っておられた。
——何ともいえない勇ましい、しかも陽気なメロディーが流

れ出て、並びいる人々は我知らず常日ごろの心のわだかまりやモジヤモジヤをどこかへ吹き飛ばして、心が和やかになり胸が温まって、陽気な雰囲気になり引き込まれつつ時の経つのを忘れていたものである
——と感慨深く振り返る。
当時の節回しは荒いタッチのようなのが感じられた。これは多少平野先生の口調によるのか、幾分巻き舌調に誘うものだった。

歌そのものが陽気に踊っていた——
明治二十年（一八八七）陰

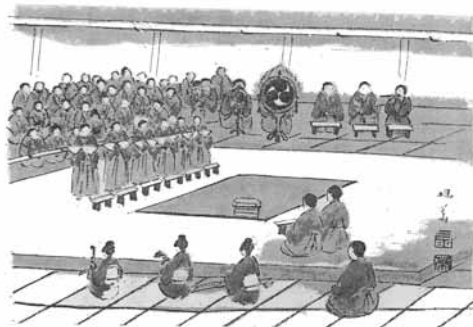
旧神殿の平面見取図

（寸法は正確ではありません）



注=この神殿は、元治元年のつとめ場所にちば・かんろだいを取り込んで明治21年に増築されたもの。
（見取図・説明文ともに『おちば今昔ばなし』より）

暦正月二十六日（二月十八日）、教祖が現身をかくされる直前のおつとめで、平野檜蔵先生は、泉田藤吉先生とともに地方をつとめられている。



平野檜蔵（郡山大教会初代会長）

弘化2年（1845）、河内国恩智村生まれ。明治19年（1886）、40歳のころ、4時間も息絶えていたところ息をふきかえす不思議なご守護をいただき、生涯のご恩報しを誓った。63歳で出直し。

上原佐助（東大教会初代会長）

嘉永3年（1850）、備中国笠岡町生まれ。明治14年（1881）にはじめておちばへ帰り、教祖から「力だめし」を受けた（逸話篇 81さあお上がり）。その後、教祖のお言葉から、赤衣を奉戴し東京布教へ（逸話篇 127東京々々、長崎）。63歳で出直し。

11月26日発刊!!

植田與志夫氏 待望の著書



『さあ、これからや—信心は意気と熱—』が、いよいよ発刊。『陽気』への連載他数々の話が収められています。何度読んでも胸打ち、血が湧く話。表紙カバー絵は、西蘭和泉氏（天理中学校美術教諭）が描いてくださいました。カバー裏の絵は、西蘭氏が植田氏の高尚佳分教会を訪ね、教会近くから、眼下に広がる大和の風景を描かれたものです。奇しくも養徳社発行千冊目の本。自信を持ってお薦めする、一人でも多くの人に読んでいただきたい本です。

四六判上製・二七二頁

定価 一、三六五円（税込）

講演会CDも好評発売中!

※ご購入は、おちばの各書店でお求めくださるか、直接当社へご注文ください。

☎0743・62・4503

養徳社 よもやま話

★先日、情報誌の行事案内に「二日月」を「日」と間違えているのを発見。なんじゃこりや!と思つた翌日、「陽気だより」前号に、「中学校」を「教」と間違えていたことを発見! 改めて肝に銘じた「校正恐るべし」。

★○月○日 突如社内でフラフラ運動が起こつた。仕事の合間を使って本社周辺には赤、青、黄の花々が植えられた。発起人は敏腕編集部員のNさん。男性にはできない女性らしい、花選びがされている。通りがかる人たち、来社いただく方の楽しみになればと思う。今後にご期待下さい。

広告を載せませんか

ようぼくの企業や会社の広告を『陽気』誌へ載せてみませんか? 掲載料金は、広告の大きさによって異なります。料金は、記事中で一回二万円から。

詳しくは養徳社広告係まで
☎0743・62・4503

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。

養徳社